

# 叱る基準は、何ですか？

## 本プログラムのねらい

## 期待される効果

○社会のルールを教えるための叱る基準について考えることができる。

○日頃、感情に任せて怒りがちな保護者が、**明確な目的や意図を持ってほめたり、叱ったりするようになる。**

## 活動の主な流れ

## 運営上の留意点

1 座談会に入る前に、オープニングプログラム「③共通点を見つけよう」を行い、グループ内で、自分の子供の頃の遊びなどについて、話し合う。(15分)

・ワークシートを配布しておく。  
▶「オープニングプログラム」参照

(例) 今回は、子供を叱ることについて、皆さんと考えます。まず、その前に、自分たちの子供時代の遊びを思い出してみましょう。

2 ワークシート1・2を記入し、グループ内の意見を聞き、感想などを話し合う。(計40分)

(例) ワークシート1の「子供の様子」をご覧ください。これらの様子に対して、あなたはどのように関わりますか？「あなた」の欄に、A～Eのいずれかを選んで記入してください。

➡ ワークシート1に自分の考えを A～E のいずれかから選んで書く (5分)

(例) ※ほぼ全員が書き終えたことを確認してからワークシート2に、ランク付けした理由をお書きください。メモ程度で構いません。

➡ ワークシート2に自分の考えを書く (5分)

(例) ※ほぼ全員が書き終えたことを確認してから同じグループ内の方の考えを聞いてみましょう。まずは、ワークシート1のメンバーの欄に、それぞれどんなランクをつけたかを書きこみ、特にランクが異なったところについて、お互いの考え方を話し合います。あとで、グループの話し合いの様子を簡単に発表してもらいます

➡ グループごとに話し合う (30分)

3 グループごとに発表し、印象に残った言葉などをワークシートに書きとめる。(15分)

・ワークシートに印象に残った意見などをまとめさせる。

4 アドバイス・ヒント資料 (CD 版参照)などを全体で読み合い、叱る際のポイントを自分なりにまとめる。(10分)

・状況に応じて、文部科学省発行の家庭教育手帳「ずいぶん厳しく叱られたけど、今ではそれに感謝しています」などを、配布する。 ▶「エンディングプログラム」参照

(例) 今日の話合いや資料の中で、印象に残った言葉があれば書きとめ、これから叱る際のポイントなどをまとめておきましょう。

